

平成28年度

橋梁技術発表会及び講演会

参加費無料
定員 **200名**
申込先着順

会場

東建ホール・丸の内(東建本社3F)

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33

TEL 052-232-8070

平成28年

日時

10

金

28

13:00~16:50

申込方法

①Fax. 0569-21-3554(裏面の用紙に記載)

②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで
(受付は平成28年9月16日~10月14日)

申込期限

平成28年10月14日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所

〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1

瀧上工業棟内 TEL 0569-21-3554

継続教育

土木学会認定CPD(継続教育)プログラム

全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

※東京地区は 10月14日(金) 銀座ブロッサムホール

大阪地区は 10月21日(金) ドーンセンター

北海道地区は 11月 2日(水) 北海道経済センター

東北地区は 11月11日(金) 仙台国際センター

九州地区は 11月18日(金) レソラNTT夢天神ホール

開催です。

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文、PPT)は、当日配布を
しておりません。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして
持参して下さい。

アクセス



●名古屋市長地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車
1番出口より徒歩1分

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 石井 孝

13:10~13:25

橋建協報告

『熊本地震に対する橋建協
一斉点検調査』報告 熊本地震調査WG

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

~垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫~
床版小委員会 鋼床版部会 片野 俊一

14:05~14:15

休憩

14:15~14:55

2.自動化が進んだ鋼橋製作の今!

~鋼橋製作の移り変わり~
製作小委員会 製作部会 板橋 健一

14:55~15:35

3.重防食塗装の耐候性に関する変遷

~塗料の専門家(賛助会員)が語る~
製作小委員会 防食部会
宮下 剛(賛助会員:大日本塗料(株))

15:35~15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45

鋼橋が火災を受けたら?

名古屋大学 大学院工学研究科
社会基盤工学専攻 准教授
北根 安雄

16:45~16:50

閉会の辞

公益社団法人 土木学会中部支部
支部長 杉戸 真太

1 ここまで進んだ鋼床版の疲労対策

～垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫～

現在問題となっている鋼床版の疲労損傷は、道路橋に疲労設計が適用される以前に設計・施工されたものが殆どである。今の鋼床版は最新の知見に基づき対策が施され、疲労耐久性が大幅に向上している。そこで、過去の疲労損傷事例と対策を整理、再考し、そこから更なる疲労対策を提案する。

現行基準は、大型車輪荷重が常時載荷される位置直下に主桁ウェブを配置しないことでデッキプレートと垂直補剛材溶接部の疲労対策としているが、それを実施できない場合も少なくない。その対策として垂直補剛材上端部をカットする構造を提案する。また、板厚12mmのデッキプレートに存置された架設用吊金具溶接部にき裂が見つかった事例があるが、板厚16mmでは問題とならない可能性があり、架設用吊金具の使用後の処置方法について提案する。

2 自動化が進んだ鋼橋製作の今！

～鋼橋製作の移り変わり～

国内の鋼橋製作の歴史は、130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑かつ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。鋼橋製作の歴史について振り返るとともに、これからの課題について考える。

3 重防食塗装の耐候性に関する変遷

～塗料の専門家(賛助会員)が語る～

鋼道路橋塗装防食便覧に重防食塗装系が規定されて10年が経過する。防食下地と高い耐候性を有した上塗り塗料の組み合わせで構成されるこの重防食塗装は、近年、道路橋のみならず腐食の厳しい塩害地区の電力設備の煙突や貯蔵石油設備のタンクなど様々な鋼構造物塗装の基本となっている。今回は、重防食塗装系に関する性能評価結果やメリットに加え、今後期待される機能について紹介する。

特別講演会

鋼橋が火災を受けたら？

北根 安雄

名古屋大学 大学院工学研究科
社会基盤工学専攻 准教授

—略歴—

1994年 京都大学工学部土木工学科 卒業
1996年 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程 修了
2003年 ニューヨーク州立大学バッファロー校博士課程 修了
2003年 Simpson Gumpertz & Heger Inc., Senior Engineer
2006年 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助手
2007年 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助教
2010年 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 准教授
現在に至る

—専門分野—

構造工学、鋼構造、複合構造

講演概要

建築構造物は、建築基準法で耐火性能が要求されているが、橋梁構造物に耐火性能は要求されていない。しかし、タンクローリー横転による火災事故なども近年発生しており、たとえ火災による橋梁の損傷程度が甚大でなくても、火災事故がもたらす経済的損失は甚大になることが予想される。過去の火災事例を振り返りながら、火災を受けた鋼橋の損傷状態や程度などの特徴およびその補修方法についてまとめる。また、火災後の鋼橋の安全性評価や補修要否の判断について、既往の知見だけでなく今後解決すべき課題を述べる。

FAX番号:0569-21-3554

平成28年度

10月28日(金)

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無